

令和7年度の域外飼育繁殖個体ファウンダーの捕獲

1. 捕獲および飼育繁殖の経過

これまでのオガサワラカワラヒワの飼育繁殖状況は表1のとおり。

表1：オガサワラカワラヒワの飼育繁殖状況

時 期	飼育数 (内訳)	事 項
2021年 9月	4羽 (♂2・♀2)	4羽 新規捕獲 飼育着手
2022年 9月	8羽 (♂4・♀4)	+4羽 追加捕獲
2022年 11月	7羽 (♂3・♀4)	-1羽 落鳥 頭部の陥没と出血痕 肺にカビの一種
2023年 2月	6羽 (♂2・♀4)	-1羽 落鳥 肝臓の変色
2023年 3月	5羽 (♂2・♀3)	-1羽 落鳥 頭部挫傷と気嚢圧迫の可能性
2023年 9月	4羽 (♂1・♀3)	-1羽 落鳥 クマネズミによる捕食の可能性
2023年 10月	12羽 (♂6・♀6)	+8羽 追加捕獲
2023年 10月	11羽 (♂5・♀6)	-1羽 落鳥 重度の化膿性壊死性気管支肺炎(捕獲前発症と想定)、捕獲時ストレス
2024年 3月	10羽 (♂4・♀6)	-1羽 落鳥 肝不全による全身性の代謝障害
2024年 6月	9羽 (♂4・♀5)	-1羽 落鳥 死因不明
2024年 10月	9羽 (♂4・♀5)	+1羽 追加捕獲 -1羽 落鳥 広範囲重度の化膿性壊死性胸膜肺炎
2025年 3-4月	9羽 (♂4・♀5) 父島：♂2・♀3 IB0：♂1・♀1 上野：♂1・♀1	飼育繁殖施設へ移送
2025年 3-4月	8羽 (♂4・♀4) 父島：♂2・♀2 IB0：♂1・♀1 上野：♂1・♀1	-1羽 落鳥 卵塞症の疑い、腹膜炎
2025年 6-7月	14羽 (♂4・♀4・不明6) 父島：♂2・♀2・不明3	+9羽 父島、IB0、上野における繁殖成功 -3羽 落鳥 死因不明(ふ化後、自然育雛中に雛死亡)

	IBO : ♂1・♀1・不明 1	
	上野 : ♂1・♀1・不明 2	

2. 今年度のファウンダー捕獲にかかる検討事項

(1) 既往のファウンダー捕獲について

既往のファウンダーの捕獲時期、捕獲を実施した島およびその優先順位は表 2 のとおり。

① 捕獲時期

- ・オガサワラカワラヒワの巣立ち雛が十分に野外環境に慣れた後にファウンダーを確保するのが理想的であることから、本種の春季繁殖活動の終了後から秋季繁殖活動の開始前の期間に実施することが望ましい。
- ・2021～2024 年度は、9 月上旬～10 月上旬の間に捕獲を実施した。

② 捕獲を実施する島およびその優先順位

- ・2021～2023 年度は、移送の安全性、域内繁殖への影響、個体の危険回避、捕獲効率、誘因条件から総合的に優先度を判断した。優先度に沿って事前に母島捕獲予定地で誘引をおこない、4 羽以上の飛来が確認できない場合は属島での捕獲に切替えることとした。
- ・2022 年、2023 年は母島の捕獲地周辺にオガサワラカワラヒワの飛来がみられず、属島で捕獲したが、秋季に属島での捕獲を実施するとなると、タイミングが秋繁殖の途中になり、捕獲作業が域内繁殖活動に影響を与える可能性があるため、作業時に配慮が必要となる。
- ・2024 年度は母島属島のオガサワラカワラヒワの繁殖実績を鑑み、平島で捕獲することとした。

表 2 : 過去のファウンダー捕獲状況

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
捕獲時期	9 月 23 日	9 月 7 日～10 日	10 月 7 日	10 月 3 日
捕獲羽数	4 羽 (♂2・♀2)	4 羽 (♂2・♀2)	8 羽 (♂5・♀3)	1 羽 (♂1)
捕獲を実施	母島 : 成鳥 1、若	平島 : 若鳥 1	平島 : 若鳥 8	平島 : 若鳥 1

した島・羽数	鳥 3	向島：若鳥 2 姉島：若鳥 1		
優先順位	母島＞属島	母島＞平島＞向 島＞姉島	母島＞向島＞平 島＞姉島	平島

(2) 今年度のファウンダー捕獲について

【検討会で議論いただきたい点】

今年度のファウンダー捕獲にかかる捕獲時期、捕獲を実施する島、捕獲羽数についてご意見いただきたい。なお、東京都の生息域外保全事業にかかるファウンダー捕獲については、昨年度の検討方針及び飼育繁殖施設の状況を鑑みると、今年度は捕獲不要であると想定されるが、今後の状況で現在の飼育個体に落鳥が生じた場合や、飼育下で誕生した個体が全て雄または全て雌だった場合は、最大で落鳥個体数（落鳥個体と同一の性）+1羽（誕生した個体と別の性）を飼育個体群に追加することが望ましい。